

第1回江南市公共施設再配置計画検討委員会議事録（概要）

- 日時 平成28年11月18日（金）午前9時30分～正午
- 場所 江南市役所 防災セミナー室（北）
- 委員 出席委員7名
高橋 政稔、恒川 和久、富貴田 智子、大谷 元、山 登志浩、
大西 信二、藤山 理江

●傍聴者数 0人

●資料

- 資料1 江南市公共施設再配置計画検討委員会委員名簿
- 資料2 江南市公共施設再配置計画検討委員会設置要綱
- 資料3 会議の公表及び公開について
（参考資料）江南市市民参加条例
- 資料4 江南市公共施設再配置計画 策定方針
（参考資料）江南市公共施設等総合管理計画【概要版】
- 資料5 江南市公共施設再配置計画 策定スケジュール
- 資料6 公共建築物の現状と課題
- 資料7 第6次江南市総合計画に係る市民意向調査報告書（抜粋）
- その他 江南市暮らしの便利帳

●議題

- 1 会議の公表及び公開について
- 2 江南市公共施設再配置計画策定方針について
- 3 公共建築物の現状と課題について
- 4 公共建築物の評価基準について
- 5 公共施設再配置の方向性の確認について

■市長あいさつ

■委員の委嘱

■自己紹介

■委員長の選出

委員の互選により、委員長に高橋委員を選出

■委員長あいさつ

■副委員長の選出

委員長の推薦により、副委員長に恒川委員を選出

■副委員長あいさつ

議題1 会議の公表及び公開について

（委員長） 事務局、説明をお願いします。

（事務局） ～資料3について説明～

- (委員) 議事録の発言者を全て「委員」表記とするとのことだが、委員 A、委員 B、委員 C とするなど、発言状況が分かるように工夫してほしい。
- (事務局) 表記方法については、市で統一した方法をとりたい。20 人以上の審議会などもあり、今後の課題として検討する。
- (委員長) 内部で調整してほしい。

議題 2 江南市公共施設再配置計画策定方針について

- (委員長) 事務局、説明をお願いします。
- (事務局) ～資料 4 について説明～
- (委員) 市民アンケートやワークショップでは、市の背景をきっちり理解した上で、再配置について考えてもらうやり方をお願いしたい。
- (事務局) 背景についてしっかり説明した上で実施する。
- (委員) 目標達成の期限（計画期間）は何年を想定しているか。
- (事務局) 40 年後を見据えた計画である。
- (委員) 「市民との情報共有・広報」に記載しているモデル事業と、市民ワークショップのメンバーの選定はどう考えているか。
- (事務局) モデル事業は、子育て支援施設と、委員会の意見などを踏まえもう 1 つ選定したい。子育て支援施設を対象としたワークショップは、子育てしている女性や将来の子育てを担うであろう若い女性などを想定している。
- (委員) 40 年間の計画期間中の支出費用は、毎年度同額ではなく凸凹した状況が想定される。支出だけではなく収入面も示さないと、市民に対し、その制約の中でどの施設を選択するかの理解が得られづらい。
- (事務局) 目標として延床面積の 14% 縮減を掲げているが、これは将来の更新費用の財源不足額を延床面積の縮減のみで解消しようとした場合の目安である。実際には、施設の縮減だけでなく、使用料の改定などによる歳入増や、民間活力の活用などによるコスト縮減による歳出減を併せて、財源不足を解消していくものである。
- (委員) アンケートだが、これまでの経験上、どの自治体でも使っていない建物の廃止については 7～8 割が賛成し、サービス水準の低下や使用料の上昇につながるものは 6～7 割が反対する結果となっている。大事なのは、評価基準と、江南市の考えを示した上でその策の良し悪しを市民に問いかける形のアンケートにすると有意義なものになる。
- (事務局) アンケート実施の際の参考とする。

議題3 公共建築物の現状と課題について

- (委員長) 事務局、説明をお願いします。
- (事務局) ～資料6(公共施設再配置計画について、公共建築物への投資状況、公共建築物の実態分析、公共建築物の配置状況の整理)について説明～
- (委員) 資料6の中の現状や課題は、江南市公共施設等総合管理計画をベースとしたものなのか。
- (事務局) 江南市公共施設等総合管理計画で得た情報をベースに、時点修正はもちろんのこと、市の行政施策との整合性や新たな分析などを行ったものである。
- (委員) コンパクトなまちづくりを進めるとあるが、この再配置計画以外に、江南市ではコンパクト化の取り組みについて、どのような議論がされているのか。
- (事務局) 現在のところ具体的な計画はないが、市の取組方針としてコンパクトシティの実現を掲げている。江南市は面積がそれほど広くないので既にコンパクト化しているという意見もあるが、先進都市の事例をそのまま江南市にあてはめるのではなく、次期総合計画の議論の中で、江南市なりのコンパクトシティの姿を具体化していく必要があると考えている。
- (委員) 人口減少や高齢化などを見据えると、コンパクト化はとても重要なことだ。例えば古知野地区や宮田地区などの旧行政区・ゾーンごとに、青写真的な将来像を示すことも考えたかどうか。
- (事務局) いま布袋駅東で進めている開発もその一環で、現在、古知野地区と布袋地区は名鉄電車につながっているが、将来的にはコンパクト化した地区同士をどう結び付けていくかというコンパクトシティネットワークの取り組みも重要である。今後、布袋駅東の開発を進めていく中で、そういったまちの姿を具体化していく必要があると考えている。
- (委員) コンパクト化については、国土交通省が立地適正化への取り組みを進めているが、県内ではまだ2、3の自治体で取り組みが行われているに過ぎない。江南市内に留まらず、広域的な視点も持つ必要があるが、市の中でも、地域の拠点となるものを作り出し、そこに集約させる取り組みも非常に重要。民間施設とも重ねて検討することも必要と考える。
- (委員) 税収の大きい市内企業はメーカーで、その取引先は海外や市外企業がほとんどである。江南駅前には取引先をもてなす飲食店などの施設がないために、江南市に本社を置く意義を見出せないという企業もある。企業誘致も進みにくい。企業流出は税収

の減少につながる。経済を活性化させるには、布袋駅ではなく、江南駅前に核となる拠点施設の整備を具体的に考えていく必要がある。

(事務局) 商工会議所からも江南駅前の開発への意見が出ている。布袋駅東の開発の話を受けて、江南駅前のまちづくりの機運も高まってきた。市がどこまで財政投資できるか分からないが、江南駅前の開発についても検討が必要であると考えている。

(委員) 江南市の人口一人当たりの延床面積は 2.15 m²と県内でも少ない状況であるにも関わらず延床面積の14%削減を目標としている。不足金額は、現在の施設状況とこれまでの投資的経費から算出されたものである。江南市は、これまでの投資的経費自体が少ないから不足額が大きくなったという認識が重要である。施設の削減がサービス量・水準の低下に繋がり、魅力がないまちと判断されては、それこそ問題となる。削減することだけを目標としては駄目。何に投資するかも重要である。

(委員) 消防署は、配置基準を満たしていないとの説明であった。何かあった場合、問題とならないか。また、配置基準の法的位置付けはどのようなか。

(事務局) 消防力の整備指針は、総務省消防庁が示すものである。目標を掲げているもので、義務ではない。しかし、北部の消防力の話は、市としても課題認識として捉えており、近隣自治体との消防広域化の検討を進めるとともに、江南厚生病院に消防車を待機させる計画も検討している。新たにハコモノを整備することは考えていない。

(委員) 小中学校の教室の利用時間は決まっており、それ以外は使われていないのが実態である。学童保育所や放課後子ども教室としての利用なども、教育委員会が施設運営しているため調整が難しいことも多いと思うが、聖域とせず今後の課題として検討して欲しい。

(事務局) 課題として認識しておく。

議題4 公共建築物の評価基準について

(委員長) 事務局、説明をお願いします。

(事務局) ~資料6(公共建築物の再配置の検討)について説明~

(委員) 単純に数字だけで評価することは危険なのではないか。

(事務局) 市民が理解しやすくするため客観的な数値は必要であり、評価点は施設を理解する上での指標であると考えていただきたい。この結果を受けて評価の低いものを削減対象とするものではない。

- (委員) 「(図表 5-6)類型別の評価項目」で、類型により評価しない項目に「×」表示をしている施設は不要と理解してしまう可能性がある。説明を受けたこの会議のメンバーだけ理解すればよいというのではなく、市民が理解できなければ意味がない。表示方法を分かりやすくすべき。
- (事務局) 意見を踏まえ、理解しやすく工夫する。
- (委員) 市民目線で、ということであれば「PPP/PFI」などの説明もあったほうがよい。
- (委員長) 「ファシリティコスト」など片仮名で表現しているものは特に配慮が必要。
- (事務局) 意見を踏まえ、分かりやすく工夫する。
- (委員) 「公共性の評価」の評価基準があいまいである。定義の補足が必要。
- (事務局) 行政関与の必要性が高中低とは具体的に何を指すか、判断材料などを示すよう検討する。
- (委員) 「適正化方策の検討時期」の説明で、長期的、段階的に進めていくのはよいことだと思う。ただ、現状は施設の管理部署がバラバラだと思うが、どこが全体をコントロールしていくのか。
- (事務局) 市としても進捗管理が重要との認識を持っており、公共施設を一元管理できる部署を新たに設ける考えである。
- (委員) あがっている評価項目自体に問題はないが、施設への行きやすさや、建築物の価値など、江南市のまちづくりを行っていく上での定量的に測りにくい視点での評価も必要と考える。
- (事務局) 意見を踏まえ、検討する。

議題5 公共建築物の方向性の確認について

- (委員長) 事務局、説明をお願いします。
- (事務局) ～資料6(公共施設の適正化に向けた方向性)について説明～
- (委員) ファシリティコストは、施設規模の大きなものほどコストが大きくなるため、評価が低くなる傾向がある。正当な評価ではない気がする。
- (事務局) 意見を踏まえ、再考する。
- (委員) 学習等供用施設は、地元に移譲するという対応は、市が投げ出した印象を受けるが、地元が所有する集会所とは別の施設か。
- (事務局) 整備に際して防衛庁の補助金を受けるため、市の施設と位置づけたものであるが、実質的には、地元の自治会が自らの費用で管理し、利用しており、地元の集会所と同等のものである。
- (委員) 自治会の人口規模に対して施設規模が過大なケースも見受けられ、維持管理や、耐用年数を迎えた際の更新等の対応にも課題

があり、市で管理してもらいたいとの声もある。地元への意向確認が必要である。

(事務局) 担当課が現在地元への確認を行っている。その結果を踏まえ、地元が受け入れ可能と確認がとれた場合には譲渡し、不可能な場合は、今後の方向性を検討していく。

(委員) この委員会は、個々の建物がいるかどうか協議する場ではないのか。学習等供用施設の話で、地元と協議しており、その結果が示されるのであれば、ここで何を話し合うのか分からない。建物の要・不要の順位が示された一覧表があり、その表を見て個々にどうするのか協議する場と理解していた。

(事務局) 最終的な結果は、個々の施設の要・不要を含めて示したものとなる。現在は、その要・不要を導く過程の段階である。学習等供用施設の譲渡の話も結論ではなく、この委員会で判断する材料の1つと理解願いたい。

(委員) 図書館の公共性の評価が0点であるが、どういった意味なのか。

(事務局) 図書館の運営は、必ずしも直営でなくてもよく、既に指定管理者制度を導入済みであり、また、他自治体では近年駅前図書館などの整備でPPP/PFIを活用したものも多い。これらにより、老朽化が進んでいる図書館の建替えを検討する際には民間参画の可能性が高いと判断できるため0点と評価した。

(委員) 1つの評価に、建物と運営、現状と将来性などの要素が含まれており、恣意的に見られるのではないか。

(事務局) 公共性の評価は、主観が入りやすく誤解を招く基準となっているので、指摘を踏まえ、再検討する。

(委員) 図書館の公共性の評価が、民間委託できるかどうかだけの評価になっており異論がある。市長が冒頭のあいさつで述べた「市の認知度が低い」ことを踏まえると、文化行政や生涯学習に力を入れる必要がある。図書館についても、ただ本を貸すだけではなく、レファレンスや講演会を開催するなど、施設としてのあり方を検討していく必要がある。

(事務局) 点数をつけると、自分がよく利用する施設が0点の場合、市が手放そうとしているとの印象を受けやすいが、そうではなく、評価の低い項目について、課題解決方策を考える上での着目点とするため、点数は「参考」と表記してあるが、誤解のないよう、意見を踏まえ、再考する。

(委員) 適応指導教室とはどういった施設か。

(事務局) 何らかの理由により登校できなくなった児童生徒に対応する場所である。現在、市民体育会館内にあるが、体育会館の建替え

に伴い、地域情報センター内への移転を検討しており、機能としては継続していくものである。

(委員) 保育園の統廃合について検討しているか。

(事務局) 検討している。

(委員) 今後40年の計画であれば、子どもの減少を考えると、学区の再編も検討すべき。

(委員) 小中学校や保育園は、コスト面の評価が概ね一律となるので、なじまない。違う評価をしてはどうか。

(委員) 各学校の児童、生徒数の一覧の資料や、地域特性などの情報もこの議論の中では必要となってくる。

(事務局) 現状の数値は示せると思う。

(委員) 市のあり方、どのようなまちにしたいかが大前提だと思う。個々の施設を議論しては、何ら特色のないまちになってしまう。例えば、江南市の特色として、地形は平地が多くバリアフリーに取り組みやすい環境にあるため高齢者は住みやすいだろう。名古屋市へ近接している特徴もある。当然これからは共働きが増えていくので、安心して働くために学童保育所を充実させることなども求められていく。さらに、江南駅は乗降客も多く、駅前のトイレを犬山線No.1のトイレになるよう投資すべきだ。名古屋通勤のホームシティとして、安心して暮らせれば、税収増にもつながる。どう議論を進めていくかの見直しが必要である。

(事務局) 再配置を検討するだけでなく、市のまちづくりとの整合も図っていく。

(委員) 今ある施設をベースとして考えては駄目。減らすことが前提ではなく、ものによっては増やすことも議論すべき。

(委員長) 財政ありきで話をしている。総合計画との絡みも重要。点だけを議論するから迷う。市のビジョンを示して、現状がこうなっており、こう改善するためには費用がいくら必要となるなど、順序だった説明が重要である。

(事務局) 現在策定中の総合計画やコンパクトシティ構想の検討などとも整合を図りながら、検討していく。

■その他

次回は2月上旬頃に開催